

松任ふるさと館歴史年表

慶応2年 (1866)	初代吉田茂平氏が、十五代吉田八郎右衛門の子として石川郡山島村安吉に誕生。 家業は油屋、酒屋(白山酒造)、質屋業などを営む大地主であった。
明治33年 (1900)	吉田銀行を松任町殿町に創設、地元安吉に支所を置く。資本金は今にすれば数十億円ともいわれ、美川、鶴来、小松、金沢にも支店を置き、馬銭と称する貨幣を発行するほど対外的にも信用があった。いかに巨大な資産を有していたかを示すものとして、山島村からの年貢米300石を筆頭に、石川郡、能美郡、金沢方面からの年貢米は、実には一千石もあった。銀行のほかにも倉庫業を開始し、広く全国から米を買い集める一方で、運送業にも手を伸ばし、北は北海道方面に米を売り、帰りの船に魚類を積んで北陸、関西に売さばいた。更に外資部を設け、朝鮮に進出して一大興業会社を設立し、リンゴ、栗を輸入した。
明治34年	二代目吉田茂平氏、松任町殿町に生まれる。
明治41年	初代吉田茂平氏、山島村村長となる。(在職期間2カ年有余)
大正元年 (1912)	初代吉田茂平氏、山島村安吉から松任町へ転出。 明治末から安吉の居宅(明治前期の建築)を、大工の棟梁谷村氏により松任駅前へ移築する。この時、正門と正面玄関廻り(応接間・事務室)がつくられ、庭もこの年から造園師猿田氏(金沢犀川沿い)と、松任町布市の谷氏が12年間毎日通い完成させた。現在の庭は、当時の東半分程度が残っているのみである。
昭和11年	初代吉田茂平氏、死去。号 松山。
昭和14年 (1939)	二代目茂平氏は、満州国の牡丹江(ぼたんこう)にて、第9師団指定の運送業を営み、軍の要請でマニラに造船会社を設立。昭和15年には松任町長となる。しかし、瀬戸内海で敵の潜水艦の攻撃を受け輸送船を失い、遂に終戦を迎えた。 昭和20年の終戦とともに、膨大な満鉄の株券は紙屑となり、広大な農地は二足三文で手放すほかなく、大正元年に安吉を引き上げるまで、何百年も住みなれた2反歩に及ぶ宅地まで、耕作地という名目で買収され、一切の財産を失う。
昭和57年 (1982)	松任市(現 白山市)が、二代目茂平氏より建物を譲り受け、10月10日「ふるさと館」として開館。
昭和58年	二代目吉田茂平氏、東京に住む息子のもとで死去。81歳。
平成13年 (2001)	ふるさと館の庭園名を公募し、「紫雲園」と命名する。 国の登録有形文化財となる。(主屋、平唐門、両脇物置 ※ 広縁は除く)
平成18年	隣に、千代女の里俳句館が開館。
令和元年 (2019)	松任ふるさと館大規模再生改修工事実施。 新型コロナ対策のため、翌年の6月2日ようやく、待望のリニューアルオープン。

※吉田家総本家の墓は本誓寺境内にある。現在も金沢市米泉において「株式会社 吉田倉庫」として引き継がれている。